

お客様紹介

# 鹿島ポリマー株式会社 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄  
Hideo Mino



工場全景（茨城県神栖市）

鹿島ポリマー株式会社様は、1988年に三菱ガス化学株式会社鹿島工場内に設立されたポリカーボネート樹脂ペレットの製造メーカーです。ポリカーボネート樹脂は、透明性、耐衝撃性、耐熱性に優れ、日常生活の身近なところや産業用で使用されています。

1997年にISO 9001、2003年にISO 14001を認証取得され、現在統合システムとして運用されています。すでに20年以上運用されていますが、当初よりISO活動に対する社内のモチベーションが高く、組織全体で品質・環境システムを積極的に展開され、その後の有効活用にも繋がられているかと思えます。

直近の審査では、全社的に実施されている作業標準での品質の作りこみ活動が同社の強みとしてあげられていました。特筆すべき点として、①作業標準を常にアップデートし、製造の現場管理やノウハウを集約。②各現場で作業標準を毎月読み合わせて手順を再確認し、作業手順の順守徹底の教育を実施。③不適合1件ごとに技術部が発生原因解析と再発防止対



イニシャルである「KPC」を前面に出し、鹿島灘の波のイメージを加えたロゴは、清潔感、誠実な印象を与える海の青をメインカラーとし、中心を流れる一筋の白いラインは初心を忘れずためめ努力をイメージされています。

策の報告書を作成。④録画による客観的なデータで発生原因を確認・分析し、対策や改善について技術部と現場の担当が協議して策定。などにより成果を出されており、高く評価されています。また、製造現場での行き届いた清掃の他、ライフサイクルの視点を考慮した活動も確認されています。

同社のペレット製品は、自動車部品、ノートパソコン、OA機器など身近な製品のパーツに使用され、その用途は現在も拡大されているとのことで、今後のさらなる展開が期待されます。

<https://www.k-polymer.co.jp/>

連載  
よみもの

## 審査員の心理

第39回（環境編）

### 「緊急事態への準備及び対応（2）」

環境主任審査員 大村 敏夫

Toshio Omura

前回は、緊急事態をどのように想定するかについて述べましたが、審査の際、組織で特定した緊急事態として、火災や自然災害であると説明されることがあります。

ISO 14001でいう緊急事態とは、有害な環境影響が発生する環境事故を想定していると理解しています。火災も環境に影響する側面もありますが、「有害な環境影響を緩和するための処置」より、(対応を放棄して)安全に避難することが対応となっていることが多いと感じます。緊急事態として地震などの自然災害を想定している場合でも、人の安全の確保が対応手順になっています。安全を優先することについては、社会からは当然のこととして理解されるでしょう。ただ、火災や自然災害に伴い発生する環境影響に備えることが必要な場合もあります。

火災時の放水や水害などでの有害な物質の流出、地震などでの設備の倒壊や電源喪失などに伴う有害物質の放出などが発生したら、企業の社会的責任が問われることがあります。このような二次災害も想定して、設備の対策をすることも緊急事態への備えでしょう。

規格では「計画した対応処置を定期的にテストする」という要求事項もありますが、ここでの“テスト”を“訓練”と解釈していることを見かけます。計画した対応処置が完璧なものなら、計画通りに行動する訓練も考えられますが、多くの場合、緊急事態は想定までで、経験したことは希かと思えます。対応処置も想定のもとで作成された机上の計画でしょう。そのような対応処置を、可能な形で予行演習することがテストであると解釈しています。対応処置手順に従い実施してみると、手順や用具に不備が発見されるかもしれません。規格では「緊急事態の発生後又はテストの後には、プロセス及び計画した対応処置をレビューし、改訂する。」とテスト後の手順の見直しが要求されています。

緊急事態が適切に想定され、対応手順や設備の対策が整備されることが重要であることを理解いただけるように審査しています。